

(議長)

日程第4、一般質問を行います。

今定例会の一般質問はお手元に配布のとおり4名の議員から通告がありました。通告順に従って、順次これを許可いたします。

(議長)

まず、小林議員の発言を許可いたします。

「小林議員」

「小林議員」

おはようございます。まず1点目ですが「地域医療再生計画」についてでございます。

平成22年度から進められてきた南檜山地域遠隔医療情報通信機器等整備事業は、25年度をもって終了する事となっています。地域医療連携の課題は、道立江差病院がこの江差町だけに限らず南檜山地域のセンター病院として機能していく上でも、重要な取り組みであり、継続・発展させて行かなければならない課題と思っております。今後の江差町としての関わりはどのようにお考えなのか、ご報告頂きたいと思っております。

(議長)

「町長」

「町長」

小林議員1問目の、地域医療再生計画についてのご質問でございますが、当該計画は平成21年南檜山地域医療再生計画が地域医療再生臨時特例基金の交付対象となり、これまで各種事業に取り組んできたもので今年は最終年となっている所です。

計画では、総合医の養成や分娩再開に向けた産婦人科医の養成、また医療連携の確立としてITネットワークの整備に取り組んで参りました。道立江差病院が地域センター病院として機能していく上で、ITネットワーク整備事業は重要でございますが、重要であり継続・発展させていく事が課題であるとしておりますが、これは医療診療に係る上で検査・投薬等の重複を防ぐ効果と、診療内容が共有出来る事で住民の身体的負担や、医療費の負担軽減などメリットは大有りです。事業は今年度で終了しますが、三次医療圏との連携も検討する為に新たな協議会を南檜山地域に設置するように聞いておりますので、新たな協議会に参加しながらより良い医療環境が構築出来るよう、取り組んで参りたいと

考えております。以上です。

(議長)

「小林議員」

「小林議員」

本計画についてですが、この中で今町長の方からお話があったように3つの柱があります。

1つはまあITネットワーク化と、自治体各自治管内の自治体病院の連携の課題。それと周産期医療、分娩の再開。この2点については道立江差病院のITネットワークの接続件数も、この管内で6,000件を超えておおむね管内の外来件数に1ヶ月の外来件数に匹敵する数まで到達されたという事だそうです。

また、分娩の再開も制限はあるものの動き出したという事で現時点では一定計画通りの評価というような事になるかと思います。

しかし、3点目の総合医の養成確保。そして圏域内医療機関への派遣という一番重要なものかもしれませんがその課題が中々見えてこない。全道的な取り組みでもありますが、その進捗状況などわかりましたら是非教えて頂きたいと思います。

全道地域では課題としては北海道の医師養成確保の就学資金等の貸付事業であったり、派遣システムの推進事業であったり。やはりこちらの方も5つほどの重要ポイントはあるようですけれども、現時点でその総合内科医の養成の課題とその地域への派遣というような事ではどのような到達になっているのか教えて頂ければと思います。

(議長)

「健康推進課長」

「健康推進課長」

ただいまの質問に対しましてお答えいたします。私の方で仕入れている情報としてお知らせしたいと思います。総合研修医の養成につきましては議員おっしゃる通り全道域事業で、道が主体的に取り組んでおります。それでこれまでの経過ですけれども、22年度からこれまで39名の医師が受講し、23名が研修を終える見込であります。残念ながら道立江差病院には研修センターに指定されていますが、研修希望する学生がおりませんでした。この研修センターですけれども、学生が希望、選択するという位置付けになっておりますので強制的に道立病院に決めさせるっていうわけにもいかないものでございます。そ

ういう状況が1点でございます。

それと地域医療指導、医療医の派遣システムっていう推進事業もございまして、その中では聞いている所によりますと、指導医12名の指導医を派遣していると。全道のあの各病院に対しまして12名の指導医を派遣しているという所までの情報でございます。以上でございます。

(議長)

いいですか。はい、「小林議員」

「小林議員」

更に今後考えられる事として、三次医療圏域との連携の課題です。今後本格的に議論されていくであろう、ドクターヘリの運行であったり、それと合わせて考えていけばこの間進めてきた南檜山の医療この圏域の中でのネットワークと三次医療圏域との連携が図られるならば、更に有用なものになると思われると思います。北海道を見ても二次医療圏域でここまで整備された地域は他にはありません。しかし反面、江差町以外の医療機関は公立の医療機関であるが、江差町の医療機関は道立江差病院と民間4医療機関となっています。ネットワークの接続費用や、一定期間の経過後のサーバーやパソコンへの投資も今後必要となってきます。経営環境によっては連携から離脱する医療機関も有り得るという風に考えています。システム維持発展する上でもまた地域医療の充実にも江差町として管内医療機関との細やかな意見交換、情報収集など医療と行政の連携も必要と思うがこの点についてはいかがでしょうか。

(議長)

はい、「健康推進課長」

「健康推進課長」

三次医療圏との連携につきましては今後今年度中に、再生計画の中で接続するような形で今動いている途中でございます。恐らくは三次医療圏に2つのシステム構築しているグループがありまして、1つの函館市立病院とのグループとの接続は可能になると思います。それで今後ですけれども、先ほどの町長からもお話ししました通り新たに設置される地域の協議会に置きまして、江差町としても今後の稼働の仕方、システムの運営に対して逐次関係町と、それから関係医療機関とも連携しながらあのその中で検討して参りたいと思っています。以上でございます。

(議長)

「小林議員」 2 問目ですよ。

「小林議員」

はい、2 問目の質問させていただきます。

町営住宅の高齢化対策についてです。あらゆる生活場面において、高齢化対策はまあ喫緊の課題となっています。町営住宅を利用されている入居者の高齢化も当然の事と思われます。そんな中階段から転落だというような事象も発生しているようです。玄関や、部屋間などの段差の解消や手すりの設置など利用者サイドに立った細心の維持管理が求められて来ていると思いますが、管理者としての今後のどのようにその点考えてらっしゃるのかちょっとお願いしたいと思います。

(議長)

「町 長」

「町 長」

町営住宅の高齢者対策用住宅の現状でございますが、陣屋団地障害、障害者用の2戸、それから円山第4団地はシルバーハウジングが9戸を含み全27戸となっているわけでありまして。その上で高齢者に対しては一定程度入居者に配慮した構造となっておりますけれども、それ以外の町営住宅につきましては特に高齢化対策は講じておらないのが現状であります。介護認定を受けている方が日常生活に支障をきたしている場合は介護保険制度を活用し、安全な生活が送れるように手すり等の取り付けなど、小規模住宅解消も行っている実態もあり、従来から希望される方については担当課に相談の上で進められている状況であります。また、高齢者及び身体不自由者に対しては高齢者住宅が空いた時点で住み替えを進めながら入居者の要望に沿い、出来る範囲で維持管理に努めて参りたいと考えておりますのでご理解を頂ければと思います。

(議長)

はい「小林議員」

「小林議員」

はい、例えば実質で入居されている方高齢者の方などが、転倒したとか怪我をしたというような場合、情報の集約というのは担当課の方では何かこう具体的そういうシステム、流れというのはあるのでしょうか。

(議長)

「環境住宅課長」

「環境住宅課長」

それではお答えいたします。1点、今年去年の冬ですか。いわゆるその怪我、転んだという事で情報ありまして高齢者の方ですね。実はその方の世帯も含めて円山第4のシルバーハウジングの方に住み替えをさせて頂きました。それでそれ以外は今の所情報得ていませんけれども、1件はございました。ということで情報は近所だとか福祉サイドからの情報だとかそういう事の部分はある程度張りながら情報収集に努めております。以上でございます。

(議長)

いいですか。はい「小林議員」

「小林議員」

高齢者にとってその使いやすい住宅それこそシルバー住宅があればそれはそれで沢山あれば、それに望ましい事も勿論ですが、予算も有り思い切った整備も難しい状況だという風に思います。

まあ先ほど介護保険も使って対応というような事ではありますが、例えば介護度というのでも要支援1から段々順繰り、介護1になって介護2介護3になっていくわけではない流れもあります。普段から介護保険を使っていないのだけでも何かの契機、例えば入院であったり転倒骨折であって一気にそれまでは介護保険の世話なんか全然ならないというような方も、例えば転倒骨折なんかで寝たきり状態になるという方が一番比率的に多いのは転倒して骨折を起こす。それでそれから寝たきりになるというような流れが要因で見ますと一番多いというような報告もございます。

そんな中で高齢化の重症化、そういう寝たきりへの移行をする原因を取り除くというような事での対応が必要なのではないかという風に思います。それで町営住宅については種々困難な課題は以前の小野寺議員の質問や、当時の担当課長から色々質疑を読ませて貰っています。

しかし、今のその居室の些細な段差を解消する事によって、転倒防止予防が図られたり、後転倒が多いのはやはり水回り、浴室であったりする所が多いようですがもしそこに手すりがあったならば、そういうような怪我をしないで済む、入居者との細やかな対応が出来ていたならまさにその転倒がなかったのではないかと思う所です。ユニバーサルデザインとは全ての人が利用しやすく、

暮らしやすいようにものづくりや町づくり、環境づくりを行うという考え方がすが町としても町営住宅の屋根や壁のハードの改修はそれはそれとして、併せユニバーサルデザイン。内面に配慮したそういう住みやすさに配慮したそんな方向に舵を切る事も必要なのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

(議長)

「環境住宅課長」

「環境住宅課長」

ご指摘の部分は十分承知でございます。限られたその住環境の中で、入居して頂いておりますので先ほど町長答弁も私も言いましたけれども、いわゆる怪我は1件先ほど言ったようにありましたけれども今現状ですれば、高齢者住宅がまあシルバーハウジングでありますけれども空き住宅になった時点でそういう希望があった場合は、住み替えしていくという状況にあります。

後先ほどのご質問にある通りいわゆる高齢者の方で足腰が弱いとかそういう部分の情報がありましたら、状況把握に努めながら限られた住環境の中でどう維持管理に努めていくかという事も配慮しながら、今後検討しながら進めて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

「小林議員」

はい、終わります。

(議長)

以上で小林議員の一般質問を終わります。